

会 議 録

会議の名称及び会議の回	令和2年度 飯田市社会教育委員会議 第1回定例会
開催日時	令和2年7月29日(水) 午後1時30分～
開催場所	飯田市役所 C311～313 会議室
出席委員氏名(敬称略)	今村幸子、今村光利、植松敏明、伊藤政子、鈴木雅子、竹内稔、永井祐子、中島正韶、平澤和弘、服部珠予、平田睦美、三浦宏子
出席事務局職員	代田教育長、今村教育次長、青木地域人育成担当参事・生涯学習・スポーツ課長、馬場文化財担当課長、北原歴史研究所副所長、秦野公民館副館長、棚田文化会館長、瀧本中央図書館長、久保敷美術博物館副館長、氏原地育力向上係長、前澤主事、島田主事
会議の概要	以下のとおり

※公表の会議録には、正副座長以外は(委員氏名)を掲載いたしません。

1 開会

(青木生涯学習・スポーツ課長)

皆様こんにちは。本日は大変お忙しいところをお集まりいただき、誠にありがとうございます。ただいまより、令和2年度第1回社会教育会議を開催いたします。

座長選出までの間、司会進行をいたします。飯田市教育委員会事務局生涯学習・スポーツ課長の青木でございます。よろしくお願いいたします。

今年度は任期の2年目ということで詳しくは申し上げませんが、学校教育関係の2人の委員は、今年度から新しく委員としてお願いすることとなりましたので、簡単にご説明いたします。

社会教育委員は「社会教育法」と「飯田市社会教育委員条例」「飯田市社会教育委員会議運営規程」に基づき設置・運営がされており、その職務としては、「社会教育に関する諸計画の立案」や「教育委員会の諮問に応じて意見すること」「職務を行うために必要な調査研究を行うこと」を主なものとして定められている会議でございます。

2 委嘱状交付

伊藤委員、平澤委員へ代田教育長から委嘱状を交付。

3 あいさつ

(代田教育長)

本日は大変お忙しいところ、お時間をいただきご出席いただいたことに、感謝申し上げます。

また日頃より飯田市の教育行政、さらにはこの間の新型コロナウイルスに関しては、各団体、いろいろな形で対応をいただいていることに、改めて感謝申し上げたいと思います。本当にいつもありがとうございます。

今年度、新たに委員としてお願いいたします校長会からの選出となられるお二人の先生方におかれましては、特にこのコロナ禍での学校現場での様子や悩み、社会教育への期待などをお伝えいただきたいと思います。また、2年目の委員の皆様には、社会教育実践者としての日頃の経験に基づく知見や見識から、引き続きご助言をいただきますようお願いいたします。

さて、25日から学校が再開しているということで、約3カ月近く休校が続きました。この間、学校の中で分散の登校、要は生徒を3分の1、2分の1にして登校したり、また家庭訪問を行ったりして子どもたちの学びを支援してきたわけですが、学校再開後は、なんとか無事に進んでいる状況です。学校の遅れはざっくりいうと、授業時数で20日分くらい遅れたんですが、夏休みが10日あたり少なくなりますので、一学期の中でその遅れた分の半分くらいは取り戻せるかなあという状況です。今後また学校の行事を見直しながら、また授業の精選をしながら今年の授業の遅れを取り戻す、というよりも子どもたちに寄り添いながら、心の結びつき、そして友だち同士のつながり、学校の喜び、ということ

を大事にしながらか進めていきたいという状況であります。天候の具合もありましたけれども、何とか無事一学期が終わりそうで、来週から遅い一学期の終わりになりますけれども、終業式が迎えられる、そんな状況でありますので、ご承知いただければと思います。

この間に社会教育の分野に目を向けてみると、教育委員会が主催をするやまびこマーチであるとか、オケ友音楽祭とか、またさらにはこの夏休み大きなイベントである人形劇、そういった活動が中止になってしまったことが本当に残念だなあというふうに思います。ただその一方で、このコロナの中で様々な活動ができていくなあということを感じる部分もあります。

ちょっと先行して、これは、「コロナの経験をこれからの学びに」という、今週配られる『Hagu』という保護者向けの教育委員会からの情報誌であります。そこでこのコロナの中で頑張っていた子どもたちの様子を特集しております。

伊賀良小学校、緑ヶ丘中学校、飯田西中学校、和田小学校区、下久堅小学校区の子どもたち、本当に頑張っているなあと感じて取材させていただきましたので、ぜひご覧になっていただきたいと思います。ちょうど、緑ヶ丘中学校の平澤先生もいらっしゃいますので、取り上げさせていただくと、私はこの授業が行われた日に視察に行っておりました。誹謗中傷の記事から考える道徳の授業ということで、残念ながらコロナウイルスが飯田市で発生したときに、ガセネタやデマ情報がすぐ出回ってしまいました。この新聞記事を題材に、これからどうやったら飯田市が、私たちがコロナによる分断をすることなく、学校生活や市民生活が送られるのかという、非常に内容の濃い授業をやっていました。ただ起こった事象を残念だったととらえるだけではなく、それを題材にしながら、この教材自身は学校の先生方が協力し合って作ったと聞いています。この緑ヶ丘中学校の取り組みが良いので、今、飯田市全体で共有したいという流れにもなっています。転んでもただでは起きない、そんな学びの姿勢を垣間見る良い授業だったなあと感じておりますので、また一読いただければと思います。

併せて、私からは、校長会・教頭会でお話しさせていただいているA4資料です。黄色で書かれているのが、今回の学習指導要領です。小学校、中学校は来年から変わるわけですが、右側の、複雑で予測困難な時代に必要となる資質・能力の育成ということが、新しい学習指導要領に示されている方向です。まさにコロナを予見したわけではないですが、こんな時代に、たくましく、自分たちで時代を切り拓いていく資質をつけていこうというのが、大きな流れの中で、今までの学び方や学力観を身につける力のことですね。学力観や学ぶ場所というの、コロナをきっかけに、大きく変えていく必要があるんだろうと思っています。

詳細まで説明しませんが、この学ぶ場所という一番下の矢印のところですが、従来は学校・教室で学ぶというのが常識だったと思うのですが、今は家庭で勉強してもそれが認められるということで、学校や家庭で学ぶということが一般化しつつあるのかと思います。そしてさらにそれを延長すると、コミュニティで学ぶ。いわゆる社会に開かれた学校、通信環境の整った家庭、そして様々な社会教育機関で学べるネットワークをすることで、子どもたちの学びというのはもっともっと深くなるだろうな。逆にこのコロナを機にそういったネットワークができ、積極的につくっていききたいと考えています。

本日、社会教育機関の皆さんは専門家もいらっしゃいますので、今までの知見や経験を基に、こんな方向でご議論ができるといいかなと、そんなふうにも思います。

結びとなりますが、この会議は、今年3回から4回の予定をしております。というのは、通常の年と違って、2016年からスタートしている第2次の教育振興基本計画に基づく12年の計画の4年目で前期見直しの年になりますので、今年度は中期、残り8年を目標にした計画の修正見直しという年になりますので、これまでの4年間を振り返りながら、次8年間をどのような方向とするのかという視点で、今年度いいものにつくり上げていくタイミングですので、ぜひ皆さんのご意見をいただきながら懇談していきたいなと思います。今年度また引き続きよろしく願いいたします。

4 委員・職員自己紹介

※委員、事務局の順で自己紹介

5 報告・協議事項

(1) 審議会等への委員の選任について

(青木生涯学習・スポーツ課長)

まず資料2、4ページをご覧ください。審議会等への委員の選出についてということで、社会教育委員から県ですとかその他の会議にご出席していただく方々でございますが、今年度任期の途中というこ

とでありまして、引き続き新しく委員になられた方は、前任からの引き継ぎという形にさせていただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

※発言者なし

(青木生涯学習・スポーツ課長)

ありがとうございます。では、今年度もこの形で進めさせていただきたいと思います。

(2) 昨年度第2回定例会に出された意見について、今年度の取組み状況

(青木生涯学習・スポーツ課長)

続きまして、資料3でございますが、昨年度3月に行われた、令和元年度第2回社会教育委員会議でいただいたご発言に対しての今年度の進捗状況ということでございますが、こちら事前にメールでも共有させていただいているものですので、こちらからの説明は簡単にさせていただきますが、また後ほど、本日のメインである教育振興基本計画の見直しのところで、質問やこれに対してのご意見などありましたら、ご指摘いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

また、以降、この会議の場でいただいたご意見に対してすぐに回答できるものについては、後日メールなどでできる限りレスポンスを早くしていきたいと考えております。資料説明については以上でございます。

6 協議事項

(1) 座長、副座長の選出について

(青木生涯学習・スポーツ課長)

まず座長、副座長の選出ということで、こちらの会議規則によって1年ごとに選出することになっておりますが、事務局といたしましては、引き続き座長として中島委員に、また永井委員に副座長をお願いしたいと考えておりますが、ご意見ございませんでしょうか。(拍手)

(青木生涯学習・スポーツ課長)

ありがとうございます。それでは中島委員に座長、永井委員に副座長をお願いしたいと思います。では、お席の移動をお願いします。以降、二人のごあいさつの後に進行を座長にお願いしたいと思います。

(座長)

引き続き座長の方を務めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

なお、この間、飯田下伊那の1市3町10カ村の社会教育委員連絡協議会の定期総会、並びに長野県の77市町村の社会教育委員連絡協議会の定期総会がございますけれども、2つとも書面審議、書面開催というふうな形で行いまして、ご了解いただきご協力いただきました。ありがとうございます。それに関わる文書をその都度発送していただきました、事務局に感謝を申し上げます。

(副座長)

副座長になりました永井です。引き続きよろしくお願いいたします。

(2) いいだ未来デザイン2028及び第2教育振興基本計画について

(青木生涯学習・スポーツ課長)

資料4をご覧ください。また、第2次教育振興基本計画のパンフレットを合わせてご参照いただければと思います。

資料4-2をご説明いたしますが、今年度教育振興基本計画の前期4年の振り返りというところが大きなテーマになっております。リニアを見据えた12カ年の計画の中で、前期・中期・後期という年数に分かれており、まずそこでしっかりとPDCAサイクルが回っていくようにということで、計画の12の柱それぞれについて整理をしているところでございます。

まず、表は、左側から12の柱、ねらい、指標となっており、これはKPIといえますか、進捗確認のための数値目標として、こちらのいいだ未来デザイン2028の方に記載されているものでございますが、その定められた数字から分析しているものでございます。この計画の議論にあがった平成27年の当時の実績とそれから令和元年度の実績についての達成目標が右側に書かれています。この欄に○とそれか

ら白の三角△、黒の三角▲というものがありますが、○が目標が達成されたもの、△が目標には届かなかったもの、プラス兆候としているものをごさいますて、それから▲は目標に届かずかつ数字が以前から悪化しているものということで、分類しております。それぞれについて、その指標の変化を踏まえつつ、担当課としての現状分析ということを書いております。

これから 12 項それぞれ簡単にご説明していくところをごさいますて、全体として、あくまで指標から見ていくと、この○の割合が総じて少ないということをごさいますて、もちろんそれは様々な側面から、ある 1 つの指標の世界というとも考えもごさいますて、数値で見ていったときにはそのねらいは果たして達成されているかといったところで、また資料の 4 振り返りのいろいろな論拠を示すところをごさいますて、まずは事務局からこれについての見解をざっとご説明をさせていただきたいと思ひます。まず、表順にいきたいと思ひます。では、基本目標 1 番から。

(桑原学校教育課長)

基本目標の 1 でごさいますて、学校教育の環境が中心ですのでポイントを絞って 1 番右側の担当課としての現状分析、それから現状と課題について、簡単にご説明を申し上げます。「学校に行くのは楽しい」と答えた児童生徒の割合ですが、若干の数字の上下がごさいますてけれども、現状維持といった状況でごさいますて。「学力向上『結い』プラン」ということで、「ねらい、めりはり、見とどけ」といったものを意識した授業づくりを、すべての教科、すべての教室で行われるようにさらに徹底していく必要があると考えております。

その下の子ども運動能力でごさいますて、この数値はご覧のとおり下降気味ということになります。学校の体育の授業ということで申し上げますと、こちらについても「学力向上の『結い』プラン」に従った授業改善を進めて行く必要があると考えております。

続きまして、2 番でごさいますて。「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒がご覧のとおり減っているという状況でごさいますて。こちらについては、その実生活と結びつけた授業のあり方に課題があるということ、あるいはその職場体験学習というのが、仕事を体験するというところに重点がおかれてしまっているのではないかということが原因として考えられます。実生活と結びつけた授業のあり方の工夫、あるいは夢や希望の持っている場面に出合う工夫。あんな大人になりたいと思えるような生き方を紹介したり、身近な大人がそのような生き方の見本を示したりというようなことも工夫をしながら、さらにキャリア教育の中でも積極的に自らの生き方について問うような授業の展開を考えていく必要があると考えているところでごさいますて。

(青木生涯学習・スポーツ課長)

続きまして、3 番「ふるさと飯田への愛着を育む」ということで、こちらのねらいが地育力を活用したふるさと学習、キャリア教育、体験活動などを通じて、子どもたちのふるさと飯田への誇りと愛着を育みますというところで、具体的な指標が、飯田への愛着を感じている高校生の割合と地域行事への参加している児童生徒の割合ということで、まず高校生の割合なんですが、こちらの 75%が 27 年度のところ、こちら高校生アンケートは廃止をしたということで、3 年に一度実施していたものでごさいますて、これが廃止になった経緯としては、当時の議論が、例えば O I D E 長姫高校と市、松本大学とのパートナーシップ協定が結ばれたことやその他の飯田市と各高校の連携が強まっている中から実態として把握をしていくことができるのではないかとこの考えの基に廃止したと聞いております。

それから小中の地域行事の参加の割合は、ちょっと表の誤記がごさいますて、小学校のところは○と△になっております、こちらは数値としても下がっており△、そんな感じでごさいますて。小学生は下がっており、中学生は上がっているというところでごさいますて、特に公民館を中心とした活動によって、中学生の主体的な活動機会が増加していると考えられます。

いずれにせよ、これらも地域行事への参加ということ自体が目的ではありませんので、それぞれの発達段階に応じて学校が地域との連携をして、いかにそれぞれしっかりと飯田への愛着を育むというねらいが達成されるかということについては、活動機会のみならず各団体のみという取り組みがあるということを考えていく必要があるというところでごさいますて。

(桑原学校教育課長)

それでは、2 ページ、4 番をご覧いただきたいと思ひます。

指標の不登校の児童生徒の在籍比のところでごさいますて、ご覧のとおり増加傾向という状況でごさ

います。中学校区ごとに教育支援指導主事の先生を配置しまして、校内の中間教室等での支援は充実してきていますが、そういった教室以外でも支援を受ける児童生徒についても増加しているということですけれども、児童生徒の全体の在籍比ということでは減少にはならなかったという状況でございます。

一つには、自己肯定感とか自己有用感に乏しい傾向があるという部分からいけば、体験活動などの機会をさらに増やしていくということ、それから中間教室とか家庭等でのICTの活用といったことで学習指導をしつつ、引き続き個々に寄り添った支援というのは、丁寧に行っていきたいと考えています。

その下のいじめの指標につきましては、数値自体は上昇をしております。いじめは人として絶対に許さないという意識を、様々な教育活動を通して児童生徒にしっかり根付かせてこられているかなという問題を、家庭や地域と連携して他者を思いやる心を育んでいきたいと考えております。

続きまして、5番でございますが、児童館、センターとクラブの定員でございます。定員につきましては、民間の児童クラブが新設したということもございまして、目標を上回ることができました。そのほかの支援では、奨学金の奨学生の応募者が減少傾向にあるといったこと、それから就学援助の援助対象費目の拡充については増額を求める要望があるといったところは、課題として認識しているところでございます。

(秦野公民館副館長)

それでは6の「地域ぐるみで子どもを育てる」につきまして、公民館からお話をさせていただきたいと思っております。

こちらの指標につきましては、小学校・中学校とも大きく伸びたという形になっております。これは平成28年度に市内全28校で立ち上がりました、飯田コミュニティスクールの理解が進んできたものと認識をしております。

現在、目指す子ども像を学校・家庭・地域が共有しまして、目指す子ども像の実現にむけて、学校ですること、家庭ですること、地域ですることを、ただし主体的に推進する仕組みを浸透させていく取り組みを行っているところでございます。

令和2年度からは三者が共同して活動するいいだCS協働活動を普及するために、飯田コミュニティスクール推進事業を公民館に新設をして取り組んでいるというところの結果が現れてきているのではないかと見ております。

7番、「生涯学び続けられる環境をつくる」ということでございますけれども、以前から公民館は外国人住民が生活者として地域で暮らしていくために、地区公民館で日本語教室や多文化交流事業に取り組んできております。この取り組みを支える住民の学習を支援するサポーターやコーディネーターの養成を行ってきています。今後も多様な人々がお互いに尊重し合い地域を構築するために、人権や平和、国際理解に対する学びを継続していくことが必要と考えて進めていきたいと思っております。

(瀧本中央図書館長)

次に、7番の「生涯学び続けられる環境をつくる」の中で読書活動についてのところでございます。

図書館では、講座の開催数を書いておりますけれども、所蔵する資料を使い、また関係する皆さんと連携して、定期的な伊那谷地名講座や文学連続講座などをはじめ、新たな内容のものとして、私の一箱図書館という本を親子で作りと、その本に紹介した本を展示していただいて、ほかの方にも見ていただいたりというものですとか、ウィキペディアタウンという取り組みで、地域を見て歩いて、そのあと図書館の資料で調べて、ウィキペディアに地域の資源を掲載するという活動など、新たな取り組みを関係する皆さん、または市民の皆さんと一緒にすることで、参加する方が増えたりまた新しい学びの機会を提供するということができました。

ただ、そういう機会にもなかなか若い世代の皆さんの参加が少ないという悩みもあります。そのようなことを踏まえて、中学生と一緒に図書館の蔵書を本屋さんと一緒に買って購入するというような取り組みも行ってきました。若い世代への読書の関わりを高めるということについては、子どもの読書週間の定着を目指していくということで、取り組みの中では1番のところにアクションプランとしては入っているんですけれども、発達段階に応じた子どもの読書の推進を、保育所と協力したり、学校と協力をしながら、子どもたちが自分で本を読むということができるようになっていくということ、協力しながらやっていこうとしております。

また、図書館で行う講座等につきましても、参加したというだけではなくて、世の中の出来事に図書館の方でもアンテナを張って、内容もそのような様々なものにしてはいるんですけれども、市民の皆さん

が参加したい、一緒にやってみたいと思われるような企画や実施方法をとるといことが必要だと考えております。

(青木生涯学習・スポーツ課長)

続きまして、8番「地域づくりの担い手を育む」ということで、こちらのねらいについては、地域を担う人材の継承と育成ということで、そもそも教育振興基本計画の「地育力による未来をひらく心豊かな人づくり」という目標は、重要なところでありますが、その指標としては、学習機会の提供数というのはほぼ横ばいで、地域人材を活用した講座・サークル活動はおよそ1,500件から300件ほど減っている。一方で、専門委員会が企画した事業の数は増えているという状況でございます。

いずれにせよ、すべてのところで右側の課題として書いているのは、やはりその参加者とか、そのまさに担い手の高齢化が進んでいるということで、研究者の高齢化が課題となっているですとか、後継者育成が必要です。スタッフの確保が課題ですとかいうところが、非常に全般として事務局としても危機意識を持ってところですので、その他についてもまた後ほどいろんな観点から取り組んでまいりたいと考えております。

(棚田文化会副館長)

次に9番であります。「文化力を高め心豊かな市民生活を実現する」という柱でございますが、ねらいとしましては、文化芸術活動を主体的に取り組むことともにその文化芸術活動を支援すること、触れる機会を提供するという形の柱になっています。

指標は、市民意識調査による割合となっております。現状で平成27年度の実績では、鑑賞と活動を行っている人の割合54%と24.5%で分かれています。現在、市民意識調査が統合された実績になっていますので、64.3%と比較対照することができない状況になっています。

市民意識調査自体の傾向ですが、年々意識としては高まっております。文化芸術活動への機会の提供や創造支援活動を支援することで、市民の皆様が感心が少しずつですが向上していくと思っております。また、アクションプランの中で人形劇によるまちづくりを推進していますが、その中で学校人形劇については、研修会を充実させていく必要があると課題としてとらえています。

(青木生涯学習・スポーツ課長)

続きまして、10番「スポーツにより人と地域が輝く社会(まち)づくりを進める」ということにつきまして、こちらの指標は、子どもの運動能力総合評価のA・Bの評価の割合をこちらの全国値以上にするということですが、こちらは達成しておらず、全体で少し下がっているところです。

こちらは総じてスポーツ庁の分析で、例えば子どもの生活中心の変化、特にテレビ、DVD、ゲーム機、スマホとかパソコンの視聴の時間が非常に増えているのではないかと指摘はなされているところですが、こちらしっかりと飯田市はいろいろ分析をしていく必要があります。現在、長野県でも分析中でございます。例えば、地域別の中でも具体的に書いてありますが、竜東地域の学校はわりと高い数値を記録しているといったところが、生活様式などどのような関連があるのかといったところ、また序列による数値分析は済んでいるところでございます。

次に、成人の週1回以上スポーツに親しむ人の割合は、10%増えているところでございますが、こちらについてはスポーツ庁でも同様の調査をしており、それもばらつきがあるもので増加傾向にあって、こちらはぶらぶら歩きとか体操とか、そうしたのももスポーツに含むような形として調査の枠が広がっているところもありますので、実態を正確に把握していく必要があると考えております。

(馬場文化財担当課長)

続きまして、柱11ですけれども、「伊那谷の自然と文化」をテーマに市民研究団体等と協働して学術研究、教育普及、保存継承活動を進めるとともに地域づくりや魅力ある生活文化の創造・発信につなげる取り組みを推進するというので、4つの指標を掲げています。

まず、調査研究報告書等の発刊件数ですけれども、図書館、美術博物館、歴史研究所等における調査研究によって発刊された報告書の数は、埋蔵文化財調査等が減って報告書の刊行数が減っているというところなんです。

教育普及活動、教育普及事業の実施回数につきましては、各社会教育機関で行っている学習講座の提供数でありますけれども、青年層の年代に地域との関わりが希薄になる傾向があって、地域を担う人材

育成につなげるような講座、学級のあり方の検討が必要となっているということです。世代等に応じた学びに対するニーズをしっかりと把握して、市民が主体的に参加できるような企画、実施方法を考えていくということが必要になってきています。

また、いわゆる地域研究の基盤を支える人材が希薄になってきているというところで、そういったところへの手当ていうのが必要になってきています。

美術博物館の来館者数につきましては、昨年度、自然、文化展示リニューアル工事に伴う休館・休室で入館者が減少しておりますけれども、一方で、先ほどのことにも関連しますが、学術研究に関わる市民の皆さんが高齢化するということで、後継者育成が進まない。美術博物館の学芸員の調査研究の比重が増してきているという現状があるというところで。

指定文化財の累計については、国史跡、飯田古墳群の指定や、座光寺の石川除、遠山川の埋没林と埋没樹といった上位指定、あるいは遠山郷を中心とした文化財指定を進めてきたというところで目標を達成してきており、引き続き取り組みを進めていくというところであります。

(青木生涯学習・スポーツ課長)

続きまして、12番の「教育関連施設のマネジメント」についてですが、こちらは6つの分野について、将来方針を明らかにした計画を策定、具体的な計画を立てていくというところでございますが、現時点として3つが達成して、その分析について今後残っているものとしたしましては、右側に記載のとおり、学校施設の長寿命化計画について、今年度中に策定するように進めたいということで検討を進めています。

また、鼎図書館については、鼎自治振興センター3階というところでございますが、全体の中から運営の意図を検討中というところであります。

ホール施設についても、公共施設マネジメントの中で全体として何をやったらいいかということを検討しているところでございます。A3の資料4については以上です。

続きまして資料4-2。今後の現状分析を行いまして、見直しに向けてということでございます。3の中期4カ年に向けての取り組みとして事務局として考えているところでございますが、全体といたしましては、まずコロナの対応があり、ますます変化が激しい時代になってきているところでございます。

そうした予測困難な未来に対応するために、1番下に書いてあるとおり、いま一度この地域の強みである社会教育により積み上げられた学びの土壌の歴史を振り返るとともに、地域社会の現状や課題に目を向け、この地域の未来を創る教育やあり方について考えていきたいという部分です。

この点については、裏面で論点を具体的に記載しておりますので、また後ほどご説明いたします。

今後のスケジュールといたしまして、まず今年度3回から4回の会議を想定しています。今回7月第1回の会議が本日でございますが、今日はこの後振り返り等、それから事務局としての方向性を提示して、そして10月頃にまた本日の会議を踏まえた上で、具体的な目的、目標、成果指標について等、事務局からの案をご提示していきたいと思っております。12月頃に計画案を定め、その後パブリックコメントなどかけていく予定でございますが、あくまでこの全体のスケジュールは現時点の予定ということでございまして、こちらの「いいだ未来デザイン2028」は、コロナの影響などがあり、スケジュールは流動的であり変更があるかもしれませんが、現時点での予定ということで、ご承知おきいただきたいと思っております。

次回は、第2回10月頃ということで、事務局で作業を進めていくところでございますが、そこで裏面、本日の会議の論点として議論いただきたいところでございまして、これから見直し作業を進めていくにあたり、論点1といたしまして、これからの社会に求められる社会教育のあり方ということで、先ほどのA3資料のKPIの中で、参加者や研究者の高齢化、次世代の担い手の育成、地域課題に対して、そうした観点も踏まえてこれから見直すところでございますが、リニア時代の到来やコロナ社会への対応のため必要不可欠な視点、特に社会教育の観点からは、もっとこういう変化があるのではないかと、こういった点も重要ではないかといったところを盛り込んだ上で、その現状についてしっかりと視点を見直していきたいと考えております。

その中でも、②といたしまして、飯田の強みは何かということで、しっかりと歴史を踏まえた上で、その時代に沿ったもの、不易流行の中での不易といったものは何なのか、そういったところを皆様からぜひご意見をいただきたいと思っております。そして、地域の現状や課題は何かというところで、事務局から提示した点について、皆様のご知見をいただきたいと思っております。

それから、論点2といたしましては、先ほど成果を測る指標としてKPIに基づいてご説明したところでございますが、また先ほどのA3の用紙の12の柱、例えば1の発達・成長の土台をつくる、そして

ねらいがあって、その指標名があるというところがございますが、結局そのねらいが達成されているかどうかを、その指標で把握しているということになっているものの、必ずしもこの指標がすべてでないという認識でございますので、どういった観点からほかにはああ言っているのか、またこれから例えば日頃、生涯学習・スポーツ課長という立場から1つ申し上げますと、10番の柱を見ていきますと、例えば、生涯スポーツ、コミュニティスポーツ・競技スポーツの推進を通じて人と地域が輝く社会（まち）飯田をつくるには、必ずしもこの指標は直結するというのはありませんので、またどういったものが中間的な指標がありえるとか、より事務局として、または社会教育委員会として、グリップ的な指標はどこなのかということについてもご意見をいただきたいと思っております。かなり長くなってしまいましたが、説明は以上でございます。

（座長）

ありがとうございます。いつものように膨大な内容のお話をいただきました。今の課長のお話の中で、最後の本日の会議の論点というところの論点の①②③、論点2もございませうけれども、ここら辺のところは、先ほどご報告をいただいたその内容につきまして、この前期4年の中でのこの成果というか、また進行中の中で、中期にどういう方向のところをかけていかなければならないのか、遠くは後期の方を見通しながら、だから中期はここをというようなこと、そういうようなものが先ほどの論点の1の①②③に関わっていると思いますので、そこら辺のところについて、それぞれいつものようにご発言をちょうだいしたいと思います。

この資料で柱の1、2とか3という形で進めません。それぞれの皆さん方の委員さんたちの専門に関わっている部分や観点の中からお話をさせていただくという形でいきたいと思っております。

（委員）

実は、はじめのところ、豊かな心を育てるという基本計画の4番の柱のところ、最近中学生といじめがあるということで、それについての作文を書くお手伝いしたことがあったので、そのときのエピソードです。その中学生の子は、自分はいじめをしたことがないし体験もないって言い切ったんですね。いやそんなことはないんじゃないのって、私は、いろいろこういったことを拾い出したと、いろいろ連呼させてみたんですが、もしかしたら、そのいじめが何かという概念自体が、その子どもたちや大人にもしかしたら異なるところがあるのかもしれないですし、その例えば、アンケートで、いじめがあったときに、それに対して元々の概念の理解が違っている場合もあるのかなと、そんなところを思いましたので言わせていただきました。

緑ヶ丘中学校の授業実践の誹謗中傷のところですが、あれは本当に大きな傷跡を残しているなど感じまして、あのときことは、ほかの地域でも起きているということがあって、私も友人や大人たちと会うたびにその話題が湧き上がってくる中で、これも一つの大きな公開処刑というわけじゃないんですが、大きな地域のいじめが公然と行われてしまったという、これだけ準備して、何かその一人一人というわけじゃないんですが、例えば飯田市ではこうですよ、それに対して宣言と言いますかね、カウンター的なものが例えばあったとすると、それがまた子どもたちに、あっそうかというふうに、こんなふうにとらえてそれをとらえている。そうでないと、どうしてもいじめですとか、隠されているようなふうにとらえるのじゃないかなという、こういうなかなか話づらいことを正面から話すことも必要じゃないかなと思いました。

（座長）

教育長のお話にもございましたように、コロナだけではございませうけれども、社会に起きたそういった事件・事象を有効な形で教材化していくというお話でございますが、そのときの観点とか、その概要をどうするかというのは、ところのことも触れていただいたというふうに思います。このことに関連してと言いたいところでございませうけれども、関連しなくてもいいですので、ご発言願います。

（委員）

どれがというわけではないんですが、一つ思うのは、全体的に子どもたちが自信がないというのが、この結果に表れているんじゃないかなと思うんですね。自分自身に自信がないということが、一つの学校のいろんな△のところを見ていると、そういうような現れが授業の遅れにつながるというか、これは

書いてないんですけれど。やっぱり子どもたちに、褒めることで、できるんだという、自信をつけていくことが大事で、親であったり、そういう社会をつくらないといけないかなと思います。

子どもを褒める、転ばぬ先の杖という形で、最近のお母さん方、これする？あれする？子どもたちにすべて聞くんですよね。これでいい、あれでいいって、小さな子にそんな判断できるわけないのに、そこから聞き始めている。だから子どもたちが、小さな頃から自分に責任を持たされているような、自信がないような、そんなふうに見えるんですね。だから、まずこの中で一番は、子どもたちに自信をつけさせることはどうしたらいいか。それで自信をつけて、自分で物事を考えるということ、どういふふうなことをしたらいいかというのが、いくつものところに共通しているような気がするんですね。それができれば、学校に頑張っていこうかなとか、行けば友だちがいるからうれしいな、ということにもなると思いますし、それが1つ。

あともう1つ、今すごい災害が、思わぬ災害が起こっている。その中で私もこの間公民館の挑戦状というのを読んでみてやってみて、伊賀良でこんな大きな災害があったんだとかいうのがわかりました。でも実際に多くの人たちは知らないと思います。だから、どこかの部分で子どもたちから、飯田のいろんなところの災害があった。それで今ができています。これからどこでも災害は起きる。やっぱりそういうことを教えていくというか、まとめないといけないかなというのを最近感じます。

それともう1つは、公民館がすごく重要な役割をしてきて、私はすごい大事なことだと思います。この間も初めて会議があったときに、公民館に行ったときに、あらかじめもう袋の中にアルコールとティッシュが用意されていて、いやこれすごいなあと思いました。どの会があるにしてもすべてそうやって用意されている。自分たちが用意するんじゃなくて公民館でも用意されて、ここを使ったら必ず拭いて帰る。そういうのが徹底されていて良いなあと思いました。あと公民館の主事さんがちょっとハードワークじゃないかなと、これ見てもわかりますけれど、かなりの量が主事さんに向かっていっているので、地域人教育であったり、地域のことすべてですけれども。地域と人、地域の中での主事さんの今までの活動みたいなのが、もしかしたら毎日普通に今までのことやっていけばいいんだということになっていないかなと、やっぱり地域の中で、じゃあ僕はこういうふうにやろうとか、私はこういうふうにやろうという発想する暇がないんじゃないかなということ、をすごく思います。

それで、私、公民館で松尾サイエンスというのを主事と一緒に立ち上げたんですけれども、そのときの主事は、僕が主事になって6年間何もつくれなかったと、だから松尾サイエンスというのを立ち上げたいと言ったんですね。それはいいねと言って立ち上げたんですけれども、そういうものが地域の中で立ち上がってない。だからやっぱり活動自体も少なくなるのかなというのを感じます。

以前、ムトスの関係で東大の牧野教授とお話したことがあったときに、後継者がいない活動というのは、そんなに無理してつくらなくてもいいんじゃないかと、本当に必要な活動ならば後継者は出てくるという話がありました。どうしても後継者を見つけなくちゃいけないというふうに思わず、本当に必要なものならば残っていくはずなので、残らないものもあっていいと思うんですよね。だから、そこを考えた方がいいかなということが1つ。私の活動もそうですが、このコロナで活動自体がすごく減っていると思います。やり方自体を考えなくちゃいけないと思います。そうなったときにこの目標というものが、回数とか実績とかということにとらわれると、来年、再来年もここがすごく落ちると思います。1番最後にありましたけれども、これからどのように評価していくかというのもすごく難しい時代かなというふうに思います。

(座長)

いろいろとご発言をいただきました。先ほどの話の残すものとか、これからもさらに充実していかなければならないこととかいう論点のところをございましたけれども、公民館は、コロナの影響で5月16日から部分的に使えるようになったんです。そのときまで私たちは雨が降っている中、こうもり傘を差しながら、そこで三役会をやったり、中には軒先で会議自体をやったりするんですよね。だから公民館、もちろん文化会館もそうございますけれども、そういった社会教育施設の集う場がある、つながる場があるというのは、このコロナで本当に身近にそういった施設があるということがしみじみ大事だということがわかったわけです。

〇〇委員さんが発言されたように、公民館、机椅子を拭きますよね、最初拭いた後、私はビニール袋を持って行って、入れて持って帰っていたんですね。そうしたら、今、上郷公民館の場合は、どこの公民館もそうなんですか、出したものをさらに袋の中に入れるんですね。それをマスクも落としてい

くというね、非常に至れり尽くせりという形、うれしく思っているところでもあります。

そういうわけで「集う場所」「つながる場所」ということを1つのキーワード、当たり前の今までの歩みではございますけれども、そここのところのことを大事にしていきたいなと思ったんですが。

(委員)

学校のこと、コロナのことが議題になっておりますが、4月に教育長が緑中へ来てくださって職員と会話をした中で、職員から、学校や地域でコロナの感染ということが出て、それで誹謗中傷がそのとき起こったら、教育委員会として、という質問をされたときに、教育長が逆に、それはその学校の日頃の教育が問われるんじゃないですか、という切り返しの言葉をいただいて、ああやっぱりコロナといえども、日頃の着実な歩みが大事なんだなということを実感しました。そういう点で、ここに書いてある4年間の指標というのは、もしかしたらコロナによって下がるかもしれないし、例えば逆に学校は楽しいですかというのは、逆に上がるのかなとも思ったり、下がるにせよ上がるにせよ、指標はこのままで、コロナという中で、教育にとって必要なものは何だろうという見返しをするには、この指標をちょっと楽しみにしたいなあと、このままの指標でぜひ比べさせていただければなあと思います。

それから、飯田市の強みと課題というところですけども、緑ヶ丘中学校の地区に来させていただいて、一番は公民館の主事さんが非常に熱心で、こんなに学校に対して地域に対して本当に真剣に考えて、汗をかいてくださるんだなあというのを改めて実感いたしました。本当に公民館の主事さんは関わりすぎじゃないかというご指摘もあるんですが、ありがたいなあと思っております。それから、課題ですけども、学校は、どちらかという公務員というか公に携わる方々で構成されているんですけども、企業の力というか、全く公務員関係とか公の仕事ではない一企業人というものも、飯田下伊那のところのお力を借りていくことが前進させるためのキーポイントに、企業の方で、飯田下伊那を利益とかじゃなくて、良くしていこうと思っている方はきっといらっしゃると思うので、私もそういう方のお力を借りたいし、お知恵を貸していただければと考えています。以上です。

(座長)

ありがとうございます。先ほど〇〇委員さんの方から、子どもに自信がないというか、どう自信をつけるかという話がありました。将来の希望を持っている児童生徒の割合というのがあるんですが、やっぱり夢とか希望というのは、自分自身が自信とか誇りを持っているから希望とか夢を語れるというふうに思うんですね。そうすると、今言った〇〇委員さんの自信というのをどうつけていくかというの、そして〇〇委員さんがおっしゃられたように、1のところの学校に行くのが楽しいという児童生徒の割合は、楽しいって実感する。楽しいって何というふうに詰めていくんですね。理科の実験等でね。ああ、そうなんだっていうと楽しいかもしれませんね。生きるって楽しいっていうふうにも実感すればですよ。それに誰がそうやって評価してくれるかという、やっぱり教員だと思うんですね。そういうふうに見ていると、明るく元気な教師が学校の最大の学習環境だというようなところへいくんですけども、なぜ私がこういうふうにしちゃべっているかという、続きを誰か発言してほしいからです。

(委員)

今、私は〇〇小学校に行っておりますが、学校の教育目標、今年の教育目標は、この言葉とは正確なことではないですけど、〇〇委員さんが言われたように、要するに自己解決力を付けるという、そういう子どもを育てることが学校の目標なんですよ。やっぱり自分で考え、教え込まれるじゃなくて、自分で考えてそれを解決していくということが自信につながるということだから、そういうふうに学校は今動いております。

そして、不登校の児童生徒がいるということで、今、学校としてはそういう子どもに対して取り組んでいるんですけど、どこに切り口を持っていかなければいけないかという、子どももそうなんですけど、やっぱりそのご家庭への支援です。今、学校でも朝1時間だけ授業をやっていく兄弟がいますが、そこまでもってくるまでなかなか大変だったんです。私の経験から、やっぱり家庭教育が大きな課題となっており、そういうところまで突っ込んでいかないと解決していけない。子どもたちが、理科でこうやって実験してすごく楽しいとか、私の場合は人形劇が3年生で取り組んで楽しくて、それだけでもやりたくて学校へ行きたいという子が過去にはいました。だから学校に来ていれば結構楽しいことがいっぱいあるんだけど、そこへ送り出していくまでの問題が、今、現状にあると思います。そこら

辺をどういうふうに解決していったらいいのか、地域ぐるみで子どもを育てるというのもわかりますけれど、具体的に、それぞれの家庭をどのように支えていくことができるのかが問題になると思います。

(委員)

年度末に、公民館関係でちょうど次年度の計画や何かを立てなきゃいけないときに、コロナが流行ってしまっていて、新年度を始める時には、どうしても前年踏襲というか、そういう形で事業計画を通したんですけど、4月のまちづくりの総会で言ったことは、すべての事業が中止になりますよと、それでゼロベースで今年は考えるということ、今までのような数量的評価みたいなことをベースにしたような、今までやってきたようなことはすべて中止を発表するものになる、計画自体が白紙から立ち上げなきゃできない。それでも何とか公民館では、学ぶ機会を1つでも2つでもつくっていく、それを担保していくというのが公民館の務めだという部分があって、中止や何かの基準というのは、単なる判断なので、誰かが決めればいい。1つでも2つでも新しい企画ができればなという意識で今やっております。

大きいものは中止になり、その中でもできるものやっつけていこうという動きになっているので、さきほどコロナで計画や何かが遅れる、学習の方も20日ほど遅れるということで、何が遅れたかというのと、計画が遅れただけなんです。カリキュラムの遅れじゃなくて、子どもたちの学び、大人の社会教育というか、一般の大人も今ほど一生懸命学んでいるときはないと思うんですね。すごく情報収集して、自分がどうやってやったらいいのか。商人もそうです。いろんな知恵を出してこれほど学んだり、要はステレオタイプで生きてたりですよ。今までの前例踏襲では何にも対応できないので、すごいなと私は逆に感じています。だからこの学びを止めるのは、ややもするとすべて中止、中止の議論に、何にするべき、やるべきか、やらざるべきか、責任をとる、とらないというその責任論とかになっていくと、どうしても全体主義とか権威主義がはびこってくる。公民館ではPDCAはもう駄目です。LAMDA(ラムダ)サイクルだとか、OODA(ウーダ)ループで行かないと。その時々で変えていかないと駄目だよということはずっと言ってきてやっつけてきていたんで、公民館委員の意識は全然違うと思うんですが、今ほど学んでいるときはないと思うんです。子どもたちもそうです。すごい疑心暗鬼になりながらも、一生懸命前向きで、追手町小学校の入り口に、「天命に即して心を憂えず」という言葉が書いてあるんですね。論語の中の一編なんですけれど、私が習った頃は天命に安んじてという、人事は天命に安んじて心憂えずという。だから今、天命にまきに従って、災害だとか感染症だとか、これを天のとき、自然にそれに寄り添いながら、状況を把握しながら決して憂えることなく、一番怖いのは心が病んでしまうこと。学ぶ意欲だとか夢とかを失って、そのときの責任意識だとか、誰かに判断を委ねるとか、ただ今まだこの地域はすごく前向きに何とかしよう。

県の4月の会議で、シニア大学の中止の決定が出たときに、その会合の中なんですけれど、自治力と学習能力の低い地域は感染症が広がる。災害が発生すると、どこかにすぐ助成金をお願いしたり、補助金を出してきたり、ボランティアをお願いするような地域は感染症と同じ、自治力がない地域だと、自分たちの中で何かとらまえて生きようとする。私が若い頃、東京で勤めていたときに、神戸の震災のその日に大阪へ入って翌日から神戸の東灘区で避難住民と一緒に炊き出しをしたり、戻ったらすぐ地下鉄サリンの銀座にいたりしたことがあったので、地域の一人一人が自分で考えて自分で行動するという、それが今すごく小さいところで見えている。それを見逃さないようにするのが、公民館にいたり地域に関わるものだなという感じがします。プレイヤーの一人としてそういうようなのは個々よく見える。ただ、全体としてはやっぱり号令かける方としては、止めてしまうという意識の方が高くなるのかな。不安、それが不安を煽って何も活動してないように見えるんだけど、すごくよく、今、学んだり活動したり、それがたまたま悪い方に行くと、デマが流れたり風評被害になったり、デマがデマのうちならいいんですが、実際に行動に移ってしまうと怖いところもあるかな。でもそういうものはよく混乱期にはあることなので、それも当然のこととして受け止めておく。こっちがそれはデマはいけないことだって勧善懲悪ができないのがこの混乱時期かなという気はします。ただ、この混乱時期にこそ教育は伸びるので、フランス革命後の混乱時期にペスタロッチだとかね、フレーベルだとか、ヘルバルトという崇高な教育者たちが生まれてくるので、これはある意味、未来のための啓示という時期、だから良い方向に進めるために先生たちが努力するのは大変かなというふうに思っています。

最後の12のところ、関連、教育関連施設のマネジメントを進めるところがちょっと▲なんですけれど。少し残念ですけど、段々人口も減少して教育を受ける人も少なくなってきて、美博だとかいろいろ今まで積み重ねてきたもので資料があつたりするんですけど、ファシリティーマネジメントというのは非常に大変かなというふうな思っています。教育だけじゃなくて、公共施設というのは教育関連

だけじゃなくてもほかの施設も全体として見ていって、その中に単体も点で見ると面として広げて、どちらかというと都市デザインの方かな。アーバンデザインの中でどういうふうにそれを生かしていくかという視点が、十何年前に私がエコミュージアムとやったときにそんな話もしたんですけど、丘の上とか、私のいるところの橋南、橋北、東野という三館の地域ですけど、この地域全体を合わせても上野公園くらいの広さなんですよ。それで、羽場、丸山も含めるとね、学芸大とか谷中霊園を合わせての範囲でしかないんですね。その中でどうやって何していくとか、その中の公共施設をどういうふうに活用していくかというのは、もう少し縦割りの教育だけじゃなくて、全体として見ていって、どういう演出をしていくかという中で、今度は暮らしをどう築いていくか。上野公園の周辺の谷中周辺も全部見るとあそこで12万人くらいいますよね、住民が。関連人口でいうと、働いていたりする人が35万人くらいはあそこで過ごしている。その中に上野公園という巨大なところがあって、全然レベルが違うんですけど、そういったものの見方で少しマネジメントをしていくと、これからどんどん余っていき、管理するのが大変になるし、お金もかかってくると思います。人口が減ってくるということを考えれば、ほかのところも要望が挙がっているいろいろなやっほしとかというのが出たり、リニアが通ったり、いろんな管理があると思うんだけど、少し全体を見ながら、教育だけじゃなくて、福祉だとか地域だとかそういうことも見ながら進めていってもらえたらなあ。

(3) 社会教育委員会議の活動についての意見交換・情報提供

今日の協議事項の(3)のところ、今、(2)のいいだ未来デザイン2028のところをあれやこれやと幅広く、あるいは、ポイント部分のところもございましたけれども、そう話はしていますが、(3)のところ、社会教育委員会議の活動について、それぞれが参加をしていたり、この会議として、市の社会教育関係の協議会とか評議会だとか専門委員会に行っている方を、そのことについて時間があれば何か発言してもらおう。その下のところの社会教育行政に対する提言等々、今もやっているわけですが、(3)と(2)のところを合わせる形でご発言をいただきます。

(委員)

こちらの基本計画のちょっと思ったのは、6番ですかね、地域ぐるみで子どもを育てるところで、学校長が、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれると感じる割合と、学校視点なんですけれども、これは保護者とか、それから子どもたちも感じられたら良いことだろうなと思います。これをすごく感じたのは、今はもうあまり子どもも大きくなっちゃって子どもと接触することがないので、2月の公民館大会で、松尾で夏休みに学校を退職された先生が朝の1時間だけ子どもたちに宿題をやらせている分科会に出たんですけど、そのときに東野の公民館の方たちも私たちがやっていると言って、そこは春休みに3日間、続けてやっているんですけど、その勢いで、じゃあ私も行くわということで、1日目に東野公民館に行っているいろいろ見てきたんですけど、本当に地域の方、それから保護者、PTAの方、子どもたちも大勢出ていて、コロナがちょっと3月の20日頃だったんですけど、そういうところで宿題をやらせる。午前中は宿題タイム、午後はお昼のお母さんたちが作った豚汁を食べて、おむすびは家から持ってきたりして、午後はレクリエーションをして、2日目は電車に乗ってどこかへ行ったり、天龍峡へ行ったりというプログラムだったんですけど、私もそれで一宿一飯じゃないですけど、本を持っていて2冊ぐらい読み聞かせをしてきて、子どもたちも地域で育っているというのをすごく実感してるなっていうところに立ち会えて、その6番だと、校長先生視点なので、何かそういうところがあるとか、そういう評価があってもいいのかなと思いました。それはまた飯田の強み、公民館主事さんたちの力だとか、それから公民館の方たちが地域の方と連携して盛り上げていくというネットワークがすごく上手に働いているからなんだなと思いました。また参加したいと思っています。

(委員)

提言ということでもないんですが、次回に宿題ということでお願いしたいと思うんですけど、先日、美博の方の協議会にも参加させていただいたんですが、この中期4年に入るにあたって、美博の中もそうですし、文化財関係で関わる場所の大切な資料なんかも保存する保管する場所が問題になってずっときているわけなんですけれども、4年の最初にあたって、文化財の担当の方、美博の担当の方、歴研の方も含めて、今後の方向、どんな形で貴重な資料を保管、活用していくのかというようなことを、ぜひ議

題としていただいてまた検討していただくようお願いしたいというふうに思います。以上です。

(委員)

論点1のところに関わると思いますが、この新しい生活様式という言葉の中に、いわゆるソーシャルディスタンスや3密だとかそういうことだけじゃなくて、今、まさにいろいろな家庭の状況の中でうまくいっている家庭会議という言葉も、私は申し上げさせていただきたいと思うんです。原点回帰のうちの家庭をなんとかもうちょっとみんなで考えていかないと、先ほどからいくつも問題が出ていますが、子どもの成長にとって一番大切なところが欠けているので、このコロナ元年にまた家庭をもう少しみんなで大事にしたいなというところでもあります。

一応、先ほど校長先生の方から、やっぱり公民館やいろいろな地域の学びの活動があるわけですが、地域の企業の人たちも、実は企業の繁栄もみんなですが、基は家庭、家庭に入るとか、夫婦、親子で明るい家庭を築くこと、これが一番の基であります。そういうことにおいて基を、先祖を尊敬したり敬ったり、そして夫婦、親子が協力して明るい家庭を築いていくこと、これが本当に今、戦後から立ち上がってきた日本の、今、また立ち上がり方のように考えて、家庭のところ、今、家庭の日はどうなっていますかということをお聞きしたいです。今もわが家の結いタイムをやっておられますか。家庭の日、第3日曜日ね、それでやっていますよね。そこのところで私が残念に思うのは、もっと具体的にいろいろなところを巻き込んでやっていくことによって、昭和41年かそんなくらいから全国的にあると思います。条例かなんかで、それなので長野県も早くからということで、市町村も飯田市もやっておられますが、この第3日曜日の家庭の日は、働き方改革のことも入れ、残業とかいろいろなところも考えながら、新しいものを設けるといってまた大変なのですが、その辺を組み立て直して良い方法を考えて、市民を巻き込んでやっていただくことにより、家庭回帰を願いたいと思います。

(座長)

ありがとうございました。

(委員)

〇〇委員が言われたように、今までの考え方をひっくり返して、何にもできないという状況の中で、じゃあどうしたらできるんだということで、私たちも、例えば子ども劇場の中でもあるいは子ども祭りでも、どうしたらこんなことをできるのかなあ、やめればすごく楽なんですよね。1年間何にもしなくてもすむから考えなくて。ただ、それでいいのか。じゃあどうしたら何か一番やりたくないかと必死で考えて、例えば子ども劇場の場合だと、8月にキャンプをやるんですけれど、この時に外だからそれは良いだろうと、ただテントに入る場合は、バンガローみたいなところに入っちゃうと、これまた密になっちゃうしということで、じゃあ青空の下とか、星空でも寝ちゃおうよ、屋根なしでもいいでという、朝露も大したことないだろう。せいぜいまずければ上へ、タープっていうのか、屋根付けるだけでビニールシートでも、それであとはごろ寝で木の下で寝るなりということで、今、考え始めているわけですが、そういう意味では、本当にどうしたら実現できるかというようなことを考えて、考えて、考えて、ときには劇団の人に聞いて、どういう状況ならお芝居できるかなとか、はたまた1ステで済むところを人数を減らしてやるんで、2ステになるけど、どうしたらギャラの負担を少なく2ステージができるかということや、2ステ分払うだけの金はないけれど、どうしたらそれぞれが見て楽しめるかというのを、今、劇団と話し合っている最中なんですけれど、本当に今までなかったことを考えているような、新しい形を考えているような気がするんです。

もう1つ、子どもたちが自信がないという話、子ども劇場の中でもあるいは子ども祭りの中でも、確かに恐る恐る、逆には初めて持つ鎌は恐る恐るの方が当然だと思うし、恐る恐るやってもらわにゃ困るんですけど、その中で自己実現、やっとなんかできたという、下手なり下手は下手なりにできたということが一つの達成感につながってくる。これがまさに自信に変わっていくんじゃないかなという気がします。そういうような子どもたちがその中でできるようなこと、あるいはできた、山なら山登って、頂上からわーっと景色を見た達成感であるように、やだやだと言ってやっとなんかこさっとこ登っても、景色を見たらスカッとすみたいなの、そんなようなものを感じるような実践というのが必要なのかなと思います。

(座長)

ありがとうございました。今の今の社会教育の実践の中で、いろいろと悩みながらアタックしている。そういうようなことが、この中期4カ年計画の見直しの中に、実践だとか、その感動を与えるとかいうようなところの話が出たというふうに承りました。

東京混声合唱団がいよいよコンサートをやります。マスクをかけてハミングの演奏会で、お金はいつものようにウン千円取ります。そういうふうな演奏会へ行ってみたいなと思っているわけですが、東京行きは止めた方がいいかなと思っています。

(委員)

私も感想みたいなことになってしまうんですけども、やっぱりこれを見させていただくと、学校の課題は大きいなと思いつつ、やっぱり一番は、子どもが学校を楽しんでいて学校へ来てくれることが一番だなあと思っているんですけど、コロナの影響、子どもたちってどんなのかなって見たときに、学校再開後に来始めた頃はやっぱり友だちに会えることが楽しいとか、勉強が楽しいという声が聞こえたんですけど、最近どうもそうでなくなってきたとか、やっぱり不安が子どもたちの中にもすごくあるような感じがして、学校の勉強も座って算数や国語をやるだけの勉強になってしまったり、いろんなものが行事がカットになったり、人と会う機会が減ったり、そんな中で、やっぱり学校は楽しいって思えなくなっているのかなというのがちょっと最近感じています。

昨日、初めてクラブ活動をやったんですけど、当初はそのクラブ活動も地域の方に講師に来てもらったりするので、ちょっとそれも感染のリスクがあるから、もう一学期はクラブをやめようかという話も一時出たんですけど、それでもなんとか千代は大丈夫じゃないんじゃないかというような地域の方の声があったりして、じゃあ一学期一回だけクラブの時間をつくりましょうということでやったんですけど、子どもたちの目が全然違うとか、楽しい授業はしているつもりなんだけれど、やっぱり子どもにとって勉強ってそんなに楽しいことじゃなくて、こういうクラブとか自分の好きなことに没頭できる時間とか、そういうのが大事なんだなというのを、昨日子どもの様子を見ていて感じました。ありがたいことに、千代の地域の方たちはみんな協力的で、野菜づくりに協力にきていただいたりとか、6月の終わりには万古溪谷の柵の木ツアーを公民館の方で開催していただいたりして、子どもたちもそういう生活のメリハリ、いろんなものがカットになっている中で、やっぱりそういう生活のメリハリがないと、子どもも元気が出ないなというのをすごく感じています。

先ほど、地域の方たち、保護者の方とかが、どれだけ地域の方が学校に入ってくれているかというふうなお話もあったんですけど、私がこの学校に来たときに驚いたのは、去年のものだったんですけども、去年も関わってくださった方の写真を全部校舎内に貼ってあって、教頭がやってくれてあったんですけども、学校に来れば保護者の皆さんもそれを見るので、これだけの数の方が関わってくれているんだなということを感じることができましたし、子どもたちもそういった授業をすごく楽しみにしているというのは感じます。

結いの日も、千代小学校では、ノー宿題スイッチオフデーということで宿題を出さない日にしています。テレビのスイッチを切りましょう、ゲームのスイッチを切りましょう。そして家族で読書を楽しんだり会話を楽しんだり家族の時間を大事にしましょうということで、保護者の方にもお願いをしています。ただ、それを数値では何がどう変わっているのかというのはなかなか見えないし、私も来たばかりで変化もまだわからないんですけども、とりあえずそういう家族の時間を大事にしてくださいという取り組みはやっていることはやっています。

(委員)

日頃思っていることなんですけれども、私は未就園のお子さんを持つ親子の方たちと接する機会が多いのですが、安心安全が土台にあることはもちろんですが、それを重視しすぎて、例えば小さなトラブルでも、子どもたちが何かをしようとする前に止めちゃうという傾向があると思うんですね。大きなトラブルにならないためにも小さなトラブルの中で学んでいくことはたくさんあると思うのですが、その前に止めてしまうことで、人と関わる学びの場というのが段々少なくなってきているのかなと。時には見守るということも大事ではないかと思うのです。小さな頃から人と関わる経験が少ないことで、さっきおっしゃった自信のなさとか、何をどうしていいのかかわからないという戸惑いが、成長するにつれ、いっぱい出てくるのかなというふうに感じています。それから危ないからやめよう。道具だったり遊具だったり、これは危ないから使わせない、遊ばせないということも多くあるように思うんですね。お

おもね道具や遊具そのものが危険なわけではなく、使い方を間違えると危ないよということだと思っておりますが、こういうふう遊ぶと危ないから、こんなふうに遊びましょうとか、そんな説明をして教えてあげることなく、危ないから排除しようとする傾向があるのではないのでしょうか。だから、子どもたちは、体験しながら学ぶ機会が少なくなっているように思います。学校生活においても、野外学習とかそういう体験の場というのが減ってきて、今のコロナの状況下でさらに難しいと思うんですけども、できることが少しでも増えてくれるといいなと思っています。

(座長)

ありがとうございました。これで協議の方の意見交換は終わりたいわけですが、与えられた課題4点の中で、社会教育分野は特化すべき取り組みや盛り込むべき視点という、盛り込むべきとしては課題はあれなんですけど、特化という形といろいろあるから、ここに絞きれないという現実が主に出たと思います。現在65歳以上の人口で33%くらいだというふうであります。それで、あと20年くらい、2045年頃では42、3%になる。飯田市の全人口の中で65歳以上の人口比率がですね。ですから、今、既に全国平均を大きく9%上がっているわけですから、過疎の高齢者が、もう飯田へ行くと社会教育の公民館活動も図書館も美博もすごい勢いだと、元気な年寄りがおると、その元気な高齢者がこの活動をしながらそういう姿を若者たちに見せていくとか、いわゆる子どもたちにその背中を見せていくというようなことが大事じゃないかと、1つ目は大事じゃないかというようなことで、その高齢者が今までより以上にどういふような形でこの社会教育活動の中に入って来るか、生涯学習で学んだものを自分だけのものの学びにせず、どのように社会へ還元していくか、次のものに還元していくかというようなところを、ぜひ次の10月のあるいは副題的な話で話し合えるといいのかなと思います。一つの問題提起でございます。

そんなわけで誠に申し訳ございませんけれど、協議の方を終わらせていただきます。

(青木生涯学習・スポーツ課長)

ありがとうございました。本日はまだ意見が出切れなかった部分については、またメール等で事務局にいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

また10月か11月に予定します第2回の会議において、また案の方は提示したいと思います。

7 各課・館・所からの報告事項等について

(青木生涯学習・スポーツ課長)

続きまして、7、各課・館・所からの報告事項についてということですが、お手元に美術博物館からのお知らせがありますので、こちらはご覧いただければと思います。

8 今年度の日程

(青木生涯学習・スポーツ課長)

今年度の日程については、2ページに記載のとおりでございます。コロナの影響で、書面により決議などは行ってございます。また、日程についてもまだ今後中止などあるかと思いますが、またその都度ご連絡をさせていただきます。

9 その他

(座長)

2ページの方の8の今後の日程のところ、9月の17日に県の社会教育研究大会があります。実は県の教育センターの大ホールが140人ということでございます。長野県77市町村ございますから、事務局を含めて一人役員の私は除いて一人ということになると77掛ける2ですよね。これは危ないと思われるかもしれませんが、そこへもって行って県の社会教育委員の表彰をしますね。そうするとスタッフを入れると軽く過ぎてしまうので、オンラインでつないで別室でやるようにしても厳しいということで、飯田市の場合は、私のほかにお二人という形で人選をさせて事務局と相談しながら、副座長さんとも話をして決めさせていただきますので、よろしく願いします。

10 閉会

(青木生涯学習・スポーツ課長)

以上をもちまして、令和2年度の第1回社会教育会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。